

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401763		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホームよここびの家 日吉 (松ユニット)		
所在地	北海道函館市日吉町3丁目20番25号		
自己評価作成日	平成24年2月1日	評価結果市町村受理日	平成24年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自由・笑顔・安心」を理念とし、職員一人一人が理念に則り日々業務に努めております。又、住宅街に位置していることから普段より近隣住民とのコミュニケーションが図れております。行事等開催時には近隣住民の参加もあり日々地域密着に力を入れております。委員会等も定期的に開催しており、「事故防止委員会」「身体拘束廃止委員会」「入居判定会議」等情報の共有、サービスの向上に取り組んでおります。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171401763&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年2月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<地域の中で暮らし続けられるような支援>
 近隣住民や和太鼓・よさこいのボランティア、家族や友人等が参加する事業所の「夏祭り」を開催し、利用者との交流の機会を作ったり、その様子をDVD録画して家族等に配布し、本人との絆が継続できるように支援している。また、敷地内の畑で職員や家族と一緒に野菜の栽培や収穫や家族との食事会を企画し本人から学んだり支えあう関係を築いていると共に地域の中で暮らし続けられるよう取り組んでいる。

<職員の段階に応じた研修の実施>
 入居年数とともに身体機能の低下や認知度が重度化していく中で、職員の支援の方法を変えていく必要性について職員間で話し合い、症状別の事例研究で利用者本位のケアサービスの提供に努め、医師・看護師の助言・指導のもと職員の段階に応じた研修会を実施している。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)				項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由・笑顔・安心」の3つの理念を掲げ、入居者様、御家族、地域住民、職員がそれぞれ共有し合い親しみのある理念を実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくりあげ、その達成の為にユニット毎の重点目標を掲げ、その実践に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所のイベントに地域住民も参加され、入居者様とのコミュニケーションの場として提供出来ている。	事業所主催の夏祭りを開催し地元の人々に参加を呼び掛けたり、町内会の慰安会に参加するなど地域の中でその人らしく暮らしていけるように地元の人々との交流に取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解や支援の方法について運営推進会議や外部での勉強会を活かし、地域住民より相談があった際等都度支援出来る様努めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では町会、包括、保健所職員、御家族様等外部の方々に参加して頂いており、テーマ別にサービスの有り方など意見交換している。	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、認知症サポーター養成講座やサービス提供状況等を具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での意見交換で事業所の実績やケアサービスの取り組みを伝えつつ市町村主催の研修や講演会への参加を積極的に行い協力関係を築いている。	市主催の研修会参加や日常業務を通じた情報交換や助言を得ながら連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置しており、委員会での検討内容や拘束の定義を職員一人ひとりが理解し、常日頃から身体拘束を行わなくても良いケアに努めている。	事故防止対策委員会、計画作成対策会議を設けてケアサービスの質の向上に取り組んでいる。また、身体拘束廃止委員会で管理者及び職員の認識の共有が行われ、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議にて「身体拘束、虐待」をテーマとして取り上げ管理者、職員に意識付けを行い、事業所全体で防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に運営推進にて2度取り上げている。現在は活用するまでに至ってはいないが、今後に備え必要性を考慮した上で勉強会等で取り上げ職員への反映を行っていききたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、現在、法人内にて「入居判定会議」を開催しておりそこで入居の可否を十分に検討した上で決めている。その上で契約の説明、同意を得た上で締結を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情相談窓口」を設置し当ホームに関する意見や苦情を集めそれらをスタッフ会議等に反映させ必要であれば経営者へ報告し指示を仰いでいる。	来訪時や家族と一緒に食事会等で意見や苦情、要望等話し合う機会を設けている。また、家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付窓口を掲示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的(月1回)に開催し、職員より意見を汲み取っている。そこでの希望や意見等を経営者に伝え運営に反映、実施している。	職員間で話し合い共有の年間目標を立て、一人ひとりの力や生活習慣を活かして、着替えや入浴洗身、トイレでの排泄や排泄の自立に向けて、時間がかかっても見守ったり、一緒になって介助する等支援している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日頃から職員の勤怠状況、勤務状況等に目を配り、実績を給与に反映している。又、昇給や昇格への判断材料とし昇給・昇格試験の実施も行われている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修や講演への参加に少しずつ参加している。又、昨年は理事長主催の研修会も行われ職員のスキルアップ取り組みに力を注いでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会やブロック会議等を通じ、様々な研修に参加する事で情報の共有、サービスの質向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の申し込みを頂いた時点で、本人様、その御家族様に対し入居する上で少しでも不安や悩みを解消して頂けるよう面談時など力を入れている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり面談を行う際は、入居に至る経緯やその背景に十分気を配り、出来る限りご家族の要望に添えるよう信頼関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には初期プランを作成、実践する事で本人様が何を求めているか何を必要としているかをケアマネージャーを中心にスタッフで共有しながらケアに努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員一人ひとりが理念を常に頭に入れ「自由、笑顔、安心」を決して損ねないようグループホームらしさを介護を通じ関係を築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様も入居者様同様の目線に立ち支援する事に努め、職員、御家族様、本人様の関係を共有出来るよう介護計画を中心に築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際に最も重要視している事である。環境変化に対する不安、疎遠を少しでも軽減できるように馴染みの人、物の関係に対し少しでも途切れないよう支援している。	地域の夏祭りや町内の慰安会参加等を通じて地元の人々との交流に努め、馴染みの美容室訪問や商店での買い物等で関係が途切れないように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員との関わりはもちろん、入居者様同士の関わりに重視している。ある入居者様は馴染みの方が出来た事で生活に活気が出ている。職員は話題を提供する事で入居者同士孤立がないよう日々支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居(契約終了)が決まった時点でその後の考えうる限り必要とされる支援を考え他施設や医療機関等へのフォローを行っている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様、御本人様や御家族様の思いを受け止めケアプランに反映させ、又日々変動する思いや希望をアセスメント、ケアカンファレンス等により検討する事で常に本人本位のケアを行っている。	カンファレンスやスタッフ会議を通じて、職員が情報を共有し、フェイスシートやセンター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御本人や御家族様から聞き取りを行い作成したフェイスシートを常に参考にしながら御本人にとって馴染みの環境が継続できる様に職員全体で努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの日々の暮らしや体調、精神状態の変化等現状の把握をする事によりその人がその人らしくベストの状態で生活出来る様に職員全体が努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様、御家族様、主治医、看護師、職員等参加の元サービス担当者会議を実施話し合いの元ケアマネージャーが介護計画を作成し定期的にモニタリングを実施する事でより現状に即した介護計画の見直しを行っている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の希望や意向を反映するように努めている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った事柄や日々の様子、ケアの内容等わかりやすく介護記録に記載する事で職員間で情報を共有しながら日々のケアに活かしていきながらケアプランの見直しに役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市内に同一法人の施設があり入居者様の状況や新しいニーズに多方面に渡り対応出来る。柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人様の状況に応じて福祉事務所、包括支援センター等の行政機関と連携を取り必要な支援をしている。又、定期的に運営推進会議を開催し町会や消防、地域包括支援センター		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族の希望のかかりつけ医と常に連携を取り定期的往診の介助や受診が必要と判断した場合には御家族への報告をすと共に依頼のあった場合には受診介助を行っており日々適切な医療が受けられるように支援している。	医師や訪問看護師、歯科医等の往診が行われ適切な医療を受けられるように支援している。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に設置している「住慶クリニック」より24時間体制で医療的な指示や助言を仰ぐ事が出来る。又、毎週火曜日に訪問され健康管理指導が実施され入居者様の健康状態の管理、把握が出来ている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を主とし入居者様一人ひとりかかりつけの病院を持っており、入退院に関してはスムーズに行うことが出来ている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも説明しており又、重度化に至る前に御家族様、主治医、看護師との相談を行い医療的な治療の必要性や看取り指針での対応など早期に対応出来るよう努めている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら看取りの指針に基づき職員間で共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応、応急処置などに関する講習を受講している職員もあり、それを活かした勉強会も行われ職員全体が把握している。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回(半年に1回)実施しており日中・夜間想定にて行っている。又、近隣の町会の参加もあり地域密着にて訓練に取り組んでいる。	消防署の協力を得て、年2回の火災避難訓練の実施や火災報知器や通報装置等の設備の点検も実施し、町内会の人々が火災避難訓練に参加するなど地域との協力体制を築くよう努めている。	今後は、水災・地震等を含めた防災対策の検討をしているので、避難誘導方法や場所、手順の見直しを実践することを期待します。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への声掛け(言葉遣い)には日々特に気をつけており、敬う気持ちを大切にしている。又、書面(記録等)でもプライバシーに配慮した記載を常に心掛けている。	身体拘束廃止委員会や接遇マナー等の内部研修やスタッフ会議を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望など意思を表出できる方については職員誰に対しても気兼ねなく話せる日々働きかけている。意思を伝えられない方については表情など様子で汲み取れるよう努めている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にもあるように自由な姿で頂く為に、個々のペースに合わせて共同生活に支障がない程度で希望に合った生活を支援している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感に合った容姿をして頂く為に、一人ひとり配慮している。又、自己決定も大事にして頂く為に買い物時等個々の好みの物を購入して頂いている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は基本的に職員で考え提供するが、季節や行事に合わせた旬の物を取り入れたり一人ひとりの嗜好を大切にしながら食事の準備を行っている。月に1回程度は出前も利用しており普段と違った食事の提供もしている。	一人ひとりの嗜好を把握してメニューが作られ、食材の調理や味見、盛り付けや後片付け等職員と一緒にしている。また、月に1回程の出前や外食の機会を提供していると共に水分・食事摂取量を把握し、健康管理している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分摂取量に合わせて味付けや量の調整を行っている。以前は、栄養士がいたが現在はいない為、職員一人ひとりが栄養に関し勉強をし日々バランスを考えている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は義歯の方も含め歯磨き行って頂き清潔を保っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心に配慮した上で気持ちの良い排泄をして頂く為に、常に排尿パターンを意識した声掛け、誘導を行っている。又、トイレが頻回な方等は居室の移動を行うなど居室より迷う事無くスムーズに排泄に行けるよう配慮している。	一人ひとりの力や生活習慣を活かしながら排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便リズムを把握した上で食事、水分量に配慮し便秘を起こさせない取り組みを行っている。又、便秘がちな方に関してはかかりつけ病院より下剤等処方して頂き排便コントロールを行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1階には特殊浴槽と一般浴を合わせて設置している為、身体的状況に合わせた入浴介助が出来る。又、入居者様の入浴希望に合わせて曜日、時間帯等特に決めておらず。	グループホームでの設置が難しい身体機能低下に対応した特殊入浴設備を完備しており、状態に応じた支援をしている。また、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床の時間は決めておらず個々の睡眠リズムに合わせてそれぞれ促している。又、昼夜逆転を防止する為にも昼寝など取り入れ適時で起きて頂く事で睡眠のバランスを取っている入居者様もいる。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時や往診時の主治医からの指示、お薬情報等から服薬方法の把握に努めている。又、状況により医師、看護師へ指示を仰ぎ対応を相談している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や得意分野を活かし残存能力を損ねないよう家事作業の中で活かして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>入居者様の希望にそった外出や受診の為の外出等必要に応じて必要な場所への外出支援する事により満足して頂いていると思われる。</p>	<p>家族等の参加しやすい土・日曜日に、家族と一緒に食事に出かける機会を設けたり、来訪時には日常の生活の様子や健康状態、意見や要望等話し合いケアサービスに活かしている。また、ホテルでのバイキング等の外食や季節毎の花見や紅葉見物など支援している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご本人様希望に応じて買い物へ出かける時、又は施設内の自動販売機で飲み物を買われる時にはご自分の財布からお金を出し支払い出来る様支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>定期的に御家族、ご友人へ連絡をしており、又御本人の希望があった時には御家族様等に電話し話しができる様支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>施設の共用空間は十分に設けており、一人ひとりが自由に使用でき、常に清潔に保つ事や不快な刺激や混乱を受ける事のないように音や光、温度などへの配慮を行っている。</p>	<p>共用空間にはひな人形等の季節毎の飾りつけが行われていたり、一人になったり楽しく過ごせるようにソファや椅子、テーブルが配置されている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホール、食堂の共同スペース内でも入居者様が好きな場所へ移動できパーソナルスペースとしてもくつろげる空間として利用できるように工夫をしている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には自宅で利用していた愛着のある家具や写真等を持ち込んで頂き御本人が自宅と変わらない環境作りを心掛けている。</p>	<p>居室は、明るく広く本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること、や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者様一人ひとりの出来ること、出来ないことを把握した上で自立して出来ることは安全かつ継続して行って頂けるよう環境作りに努めている。</p>		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401763		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホームよろこびの家 日吉 (柏ユニット)		
所在地	北海道函館市日吉町3丁目20番25号		
自己評価作成日	平成24年2月1日	評価結果市町村受理日	平成24年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自由・笑顔・安心」を理念とし、職員一人一人が理念に則り日々業務に努めております。又、住宅街に位置していることから普段より近隣住民とのコミュニケーションが図れております。行事等開催時には近隣住民の参加もあり日々地域密着に力を入れています。委員会等も定期的に開催しており、「事故防止委員会」「身体拘束廃止委員会」「入居判定会議」等情報の共有、サービスの向上に取り組んでおります。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171401763&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年2月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由・笑顔・安心」の3つの理念を掲げ、入居者様、御家族、地域住民、職員に対し共有出来る覚えやすい親しみのある理念を実践している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や行事(誕生会等)に入居者様をはじめ、地域住民の方の参加もあり交流を図っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を主とし最近では、「認知症サポーター養成講座」を取り上げ地域の包括支援センターに依頼、講演して頂いている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1度(年6回)開催し、会議には町会、包括職員、保健所職員、入居者様御家族など外部の方々にも参加して頂き毎回様々なテーマをもとにサービス向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を主とし連携を図っている。又、市が主催する研修や講演への参加を通じ協力関係を築いている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で「身体拘束廃止委員会」を設置し、委員会を中心に日頃から身体拘束のないケアへの取り組みに力を入れている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会でも虐待については取り上げ防止に努めている。又、運営推進会議等でもテーマとして取り上げ意識付けを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に運営推進にて2度取り上げている。現在は活用するまでに至ってはいないが、今後に備え必要性を考慮した上で勉強会等で取り上げ職員への反映を行っていききたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、現在、法人内にて「入居判定会議」を開催しておりそこで入居の可否を決めている。その上で契約の説明、同意を得た上で締結を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情相談窓口」を設置し当ホームに関する意見や苦情を集めそれらをスタッフ会議等に反映させ必要であれば経営者へ報告し指示を仰いでいる。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的(月1回)に開催し、職員より意見を汲み取っている。そこでの希望や意見等を経営者に伝え運営に反映、実施している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日頃から職員の勤怠状況、勤務状況等に目を配り、実績を給与に反映している。又、昇給や昇格への判断材料とし昇給・昇格試験の実施も行われている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修や講演への参加に少しずつ参加している。又、昨年は理事長主催の研修会も行われ職員のスキルアップ取り組みに力を注いでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会やブロック会議等を通じ、様々な研修に参加する事で情報の共有、サービスの質向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の申し込みを頂いた時点で、本人様、その御家族様に対し入居する上で少しでも不安や悩みを解消して頂けるよう面談時など力を入れている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり面談を行う際は、入居に至る経緯やその背景に十分気を配り、出来る限りご家族の要望に添えるよう信頼関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には初期プランを作成、実践する事で本人様が何を求めているか何を必要としているかをケアマネージャーを中心にスタッフで共有しながらケアに努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員一人ひとりが理念を常に頭に入れ「自由、笑顔、安心」を決して損ねないようグループホームらしさを介護を通じ関係を築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様も入居者様同様の目線に立ち支援する事に努め、職員、御家族様、本人様の関係を共有出来るよう介護計画を中心に築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際に最も重要視している事である。環境変化に対する不安、疎遠を少しでも軽減できるように馴染みの人、物の関係に対し少しでも途切れないよう支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員との関わりはもちろん、入居者様同士の関わりに重視している。ある入居者様は馴染みの方が出来た事で生活に活気が出ている。職員は話題を提供する事で入居者同士孤立がないよう日々支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了が決まる前後に本人様に必要な支援(他サービスの利用)等を考え本人、御家族様に適当なフォローを提供している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様、御本人様や御家族様の思いを受け止めケアプランに反映させ、又日々変動する思いや希望をアセスメント、ケアカンファレンス等により検討する事で常に本人本位のケアを行っている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御本人や御家族様から聞き取りを行い作成したフェイスシートを常に参考にしながら御本人にとって馴染みの環境が継続できる様に職員全体で努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの日々の暮らしや体調、精神状態の変化等現状の把握をする事によりその人がその人らしくベストの状態与生活出来る様に職員全体が努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様、御家族様、主治医、看護師、職員等参加の元サービス担当者会議を実施話し合いの元ケアマネージャーが介護計画を作成し定期的にモニタリングを実施する事でより現状に即した介護計画の見直しを行っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った事柄や日々の様子、ケアの内容等わかりやすく介護記録に記載する事で職員間で情報を共有しながら日々のケアに活かしていきながらケアプランの見直しに役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市内に同一法人の施設があり入居者様の状況や新しいニーズに多方面に渡り対応出来る。柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人様の状況に応じて福祉事務所、包括支援センター等の行政機関と連携を取り必要な支援をしている。又、定期的に運営推進会議を開催し町会や消防、地域包括支援センター		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族の希望のかかりつけ医と常に連携を取り定期的往診の介助や受診が必要と判断した場合には御家族への報告をすと共に依頼のあった場合には受診介助を行っており日々適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に設置している「住慶クリニック」より24時間体制で医療的な指示や助言を仰ぐ事が出来る。又、毎週火曜日に訪問され健康管理指導が実施され入居者様の健康状態の管理、把握が出来ている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を主とし入居者様一人ひとりかかりつけの病院を持っており、入退院に関してはスムーズに行うことが出来ている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも説明しており又、重度化に至る前に御家族様、主治医、看護師との相談を行い医療的な治療の必要性や看取り指針での対応など早期に対応出来るよう努めている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応、応急処置などに関する講習を受講している職員もあり、それを活かした勉強会も行われ職員全体が把握している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回(半年に1回)実施しており日中・夜間想定にて行っている。又、近隣の町会の参加もあり地域密着にて訓練に取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への声掛け(言葉遣い)には日々特に気をつけており、敬う気持ちを大切にしている。又、書面(記録等)でもプライバシーに配慮した記載を常に心掛けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望など意思を表出できる方については職員誰に対しても気兼ねなく話せる日々働きかけている。意思を伝えられない方については表情など様子で汲み取れるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にもあるように自由な姿で頂く為に、個々のペースに合わせて共同生活に支障がない程度で希望に合った生活を支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感に合った容姿をして頂く為に、一人ひとり配慮している。又、自己決定も大事にして頂く為に買い物時等個々の好みの物を購入して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は基本的に職員で考え提供するが、季節や行事に合わせた旬の物を取り入れたり一人ひとりの嗜好を大切にしながら食事の準備を行っている。月に1回程度は出前も利用しており普段と違った食事の提供も行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分摂取量に合わせ味付けや量の調整を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前のうがいを行う事で口腔内の洗浄、風邪予防も兼ね毎日行っている。又、毎食後は義歯の方も含め歯磨き行って頂き清潔を保っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心に配慮した上で気持ちの良い排泄をして頂く為に、常に排尿パターンを意識した声掛け、誘導を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便リズムを把握した上で食事、水分量に配慮し便秘を起こさせない取り組みを行っている。又、便秘がちな方に関してはかかりつけ病院より下剤等処方して頂き排便コントロールを行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間を決めた入浴は行っておらず、一人ひとりの希望に合わせた入浴支援を行っている。又、馴染みの入居者様同士であれば一緒に入浴される事もある。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床の時間は決めておらず個々の睡眠リズムに合わせてそれぞれ促している。又、昼夜逆転を防止する為にも昼寝など取り入れ適時で起きて頂く事で睡眠のバランスを取っている入居者様もいる。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時や往診時の主治医からの指示、お薬情報等から服薬方法の把握に努めている。又、状況により医師、看護師へ指示を仰ぎ対応を相談している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や得意分野を活かし残存能力を損ねないよう家事作業の中で活かして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>日々、天候を考慮した上で散歩やドライブ、買い物等外出している。受診との兼ね合いもあるが、出来る限り希望に添えるよう支援している。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理については全て職員で行っている。買い物時レジの前では本人にお金を手渡し実際に払って頂く事もあり買い物をしているという認識を持って頂いている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>御家族や御友人との電話のやり取りは日常的に行われている。又、年末年始は年賀状の送付も行っている。1階には公衆電話も設置しておりいつでも外部の方との連絡を取る事が出来るようになっている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間には植木や花といった植物を置くことで生活感や季節感を味わって頂く。又、ホールには大きなソファを設置する事で誰でも気兼ねなくくつろげる空間を作っている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホール、食堂と好きな場所でお話されたりお茶を飲んだり一人ひとりが好きな場所で過ごせるよう配慮している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には使い慣れた馴染みを物(写真や家具等)をいくつか置くことで居心地良く慣れ親しむ事が出来る居室を作っている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全な空間作りに努めており、リハビリなど簡易なものを出来る方にはして頂いている。事故等防止の為、入居者様に合わせた環境作りを行っている。</p>		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	現在は年2回火災想定訓練のみしか取り組めていない。又、業務都合上業務内での自主的な訓練の実施が難しい状況。	今までは火災のみの想定で訓練を実施していたが、昨年の震災を踏まえ火災のみではなく、地震等の自然災害に対する訓練や勉強会等を行っていき災害に対する知識向上等対策にもっと力を入れていかなければならない。	年2回の訓練だけではなく自主的な災害へ対する訓練を行っていく。訓練以外でも消防、警察に協力を依頼し災害に対する取り組みの勉強会を開催していきたい。又、地域の住民への災害時の協力要請の体制を確立していきたい。	2年
2	49	外出はしているものの満足いく頻度ではない。又、外出される方に偏りも見られている。	御家族様への協力を依頼し外出の頻度(希望の外出)を増やしていきたい。買い物や外食等の行事も増やしていきたい。	全入居者様が偏りなく希望通り外出できるよう業務の改善、人員の増加等検討したい。	1年
3	4	運営推進会議で取り上げるテーマに関し材料が不足している。	年6回2ヶ月に1度のサイクルを崩さず開催していきたい。	他GHからの情報収集や市や包括への協力要請に力を入れテーマの提供をして頂く。	1年
4	14	協議会開催の研修やブロックでの研修等多々あるが、業務都合上出席出来ない事が多い。	出来るだけ外部の研修へ出席し情報を取り入れ自施設へ反映、勉強会を開催していきたい。	研修への参加が出来なくとも他出席者から情報を聞いたり、研修資料だけでも頂き情報収集に努めていきたい。	1年
5	45	食事について現在は様々な献立を考え季節に合った旬の物等取り入れたり、月に1回程出前を頼むなど行っているが、外食など違った環境の中での食事がほとんど取り入れられていない為、入居者様への刺激が不足している。	ホーム内だけでの食事にこだわらず、外食も行事等として取り上げていきたい。頻度も多くグループホームらしさを出していきたい。	個別でも良いので少しずつドライブがてらの外食や2ヶ月に1度全体での外食等取り入れていく。	半年

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。